

事業所名		ててスクール 浦和教室		公表日		2026年 1月 31日	
		チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点	
			はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	生徒の来所時間の分散と、机や物の配置を工夫している。	今後も来所人数や工作の内容によっては机の配置を工夫していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	児童の利用数が急に増えた時は臨時に職員に出勤してもらうなどの対応を行い、適切に対応ができる人員配置になるよう努めている。	今後も、職員の配置を考える際に、人数だけではなく子どもの特性を考えて配置していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	教室の入口に階段があり、バリアフリー化がなされているとは言い難いが、身体の障害児の受け入れはしていないので、不足を感じることはない。	教室入口に手すりを設置するなどしたが、今後も必要に応じバリアフリー化を進めていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	子どもが帰宅した後は、こまめに消毒をして、次に来る子どもを受け入れている。一日のはじめと終わりに、全職員で掃除機、消毒、トイレ掃除などを行っている。	今後もコロナ対策から続く消毒、検温等を忘れることを行っていく。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	雑音や大きな音が苦手な子どもが通所した際は、別室で活動できる用に配慮している。	今後、心を落ち着ける等の対応が必要な子どもが通所することになった際の部屋の雰囲気作り等もしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	職員間で密に情報の共有を定期的に行っている。目標設定と振り返りについてミーティングを通して密な情報の共有を図っている。	今後もさらに全職員が業務改善を進めるために意見交換と密なコミュニケーションを行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者様から頂いた評価表をまとめ、改善に努めている。	アンケート結果をつけ、職員間で指摘があった意見の対応を考え業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	業務開始前、業務後に職員間での意見交流の機会を設け、子どもの支援についてなどの意見等を話し合い、改善点があれば対応している。	今後も毎日のミーティングを設け、改善点を対応するようにしていく。全職員の意見を聞けるように意見交流の場を大切にしていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	第三者による外部評価は行っていない。	第三者による外部評価は行ってない為、機会があれば検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	市や区開催の研修の他に、職員が希望する外部研修などにも積極的に参加すると共に、法人内においても研修を実施している。研修に参加した職員は研修内容をレポートにまとめ、他の職員に情報提供している。	今後も研修に参加できる環境を整えていき、職員間で密に情報交換していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	作成しており、「支援プログラム」をホームページに掲載している。	「支援プログラム」に追加等の変更があった際はホームページを更新していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	個別支援計画時のアセスメントの他、日々の連絡帳や保護者との電話連絡等で保護者に希望を伺い、サービス計画を作成している。	放課後等デイサービス計画作成の際は子どもと保護者のニーズや課題をしっかりと把握し、職員間で分析し作成していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画作成時の、モニタリング会議には日々の子どもの実態、提供実績記録等を踏まえている。その際全職員が子どもの最善の利益を考慮できるように検討している。	今後も放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、全職員で検討していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画を全職員が閲覧できるようにし、子どもの支援が計画に合っているか確認できるようにしている。	今後も放課後等デイサービス計画を全職員で共有し、計画に沿って支援が行われているか適宜確認していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	子どもの特性についての書籍を揃え、一般的なアセスメントを行っているが、一般的なアセスメントにとらわれないように職員間で評価基準を共有している。	全職員間で評価基準を確認できるように口頭伝達等でずれが生じないようにしていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画作成時には「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の各項目のねらいをしっかりと踏まえ、具体的な支援内容を設定している。その際、全職員の意見を聞き支援内容の設定に反映させている。	今後も職員での会議や保護者との面談を通じて、支援内容を共有しながら見直しを行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	活動プログラムの立案の際ミーティング等で全職員の意見を集約している。	活動プログラムで取り入れたいものがたときは、ミーティング以外でも気軽に相談できるようにしていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	日々のプログラムは児童の進行度やその日の様子に合わせており、月ごとのイベントも季節に合わせてものが多く、固定化されない様工夫がなされていると思う。	例年通りの活動プログラムにならないように、常に新しいプログラムの導入を検討していく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	学習活動では個人活動、工作や休み時間などで集団活動とメリハリをつけて行っている。	今後も子どもの状況に応じて個別支援と集団支援を組み合わせ、サービス計画を作成していく。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎日の支援開始前にミーティングを行い、役割分担や活動内容を確認し、チームで支援を行っている。	今後もチームで支援を行っているという大切さを意識して打ち合わせを行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後には打ち合わせを行い課題だけではなく成功事例も共有し、職員で共有している。	支援終了後の限られた時間を有効に使うため、短時間でも要点を押さえたミーティングを実施する。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々の支援内容は必ず記録を残し、支援の検証や改善につなげている。	記録作業が負担にならないように、簡潔に記入できる仕組みを整備する。	

関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的に適切にモニタリングを行い、必要であれば支援の見直しもなされている。	今後も定期的なモニタリングとサービス計画の見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	100%	0%	子どもの目標・状況に合わせて組み合わせ基本活動を取り入れている。	今後もガイドラインに沿った支援を行っていく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	学習や工作の時には、子どもが選択しやすいように複数の選択肢を提示し、小さなことから自己選択ができるようになるように支援を行っている。	子どもの自己選択を尊重し、それを実現するための支援を行っていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	会議には、日常的に子どもの状況を理解した者が参画している。	今後も子どもを理解している職員が参画できる様に配慮していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	保護者、相談支援員等を通じて、関係機関と連絡を取り合っている。	連携して支援を行う体制は整えられているので、今後も情報を共有し支援を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	91%	9%	送迎支援を行っていない為、学校の情報を直接的には共有できていない。しかし保護者から学校での行事・下校時間等を教えてもらうようにしている。	保護者を通じて学校との情報共有を引き続き行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	82%	18%	必要に応じて情報共有及び相互理解を行っている。	今後も情報の共有と相互理解に努め、子どもが安心して支援を受けられる環境の整備に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	引継ぎ事項などがあれば、連絡を取り合い、情報の共有と相互理解に努めている。	今後も事業所間への引継ぎを円滑に進められる様に情報を共有していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	91%	9%	研修に参加したり、必要に応じて、電話等で助言を受けている。	積極的な連携を出来るように、日ごろから連携を深めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	91%	9%	頻繁にはないが、地域で交流する機会を作るようにしている。	障害の特性により、集団活動が難しい子どもがいる場合、無理のない形で参加できる機会がないか積極的に検討していく。
保護者への説明等	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	協議会等の案内が来た際には参加するようにする。	協議会への参加をするために、職員間のスケジュール調整が必要となる為、参加できるよう考慮していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳や送迎時、電話やメールなどで、日々情報を共有する事で、共通理解に努めている。	自立通所なので直接話す機会がない保護者については、今後も連絡帳やメール、電話などを積極的に使いながら、情報共有を行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	毎月のお知らせやLINE等を使って、家族支援に関する研修の情報提供を行っている。	アンケートやヒヤリングを通じて、保護者が必要としているテーマや形式を把握し、プログラム内容に反映させる。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に必ず重要事項や運営規定、支援プログラム、利用負担等について、口頭で読み合わせを行うと共に、疑問点等にお答えする形で説明を行っている。	いつでも保護者から質問があった際、丁寧な説明を心掛ける。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	定期的に保護者と子どもからの要望や意向を聞く場を設けている。	子どもや家族の意向を確認するため、ヒヤリングだけではなく、日々相談できる環境を設けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	サービス計画作成後は、必ず保護者に確認の後、同意を得ている。	計画同意後も定期的に保護者との話し合いの場を設け、必要に応じて柔軟に計画を見直していくプロセスを標準化する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	子どもが通所する時間以外でも面談ができるよう案内している。面談以外でも電話やメールや連絡帳などで相談や助言などの支援を行っている。	今後も適切な面談や助言などの支援を行えるよう努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者会でのニーズの把握や保護者へのLINE通知や毎月のお便り、送迎時などを通して、情報の周知を行っている。	定期的に保護者会等を開催する事により、保護者の交流する機会を提供できる様に努める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情に対応する体制を整備しており、苦情等があった場合には、対応を協議して、再発防止に努めている。	今後も苦情などに対して丁寧に対応し、満足いただける支援の提供に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	毎月のお便りや公式LINE等を通じて、活動内容や行事予定などをお知らせしている。	今後も、情報がわかりやすく伝わる様に積極的に発信していく。
保護者への説明等	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報の取り扱いについては厳重に行い、書類に関しては鍵付きの場所で保管し、データはパスワードをかけている。	今後も個人情報の取り扱いには十分に注意し、外部に漏れないように細心の注意をはらっていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	視覚的に情報が伝わりやすい場合には視覚的に伝達し、短い文章で伝わりやすい場合は、箇条書きで伝える等、状況に応じて伝達方法の配慮を行っている。	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達の際には各人に対してしっかり配慮していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域の福祉施設（多機能型事業所）と連携して施設運営を行っている。	今後も更なる地域交流を検討し、地域に開かれた事業運営を行っていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各種マニュアルを作成し、定期的に各種の訓練を行っている。	今後も定期的に訓練を行っていくと共にマニュアルなどの周知徹底に努めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難訓練等を行っている。	今後も必要な訓練を継続して行っていくと共に、心肺蘇生法、AED等の研修も行っていく。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	契約時に服薬、予防接種、てんかん発作等について確認するとともに、対応の確認もする。また、アナフィラキシーショックや心肺蘇生法についての対応も職員で周知している。	今後も、入所時に持病やアレルギーの確認と、発作時の対応などを確認し、アレルギーなど情報は毎年定期的に更新している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	ててスクールではお菓子の提供を行っておらず、教室内でお菓子を食べる事はないが、イベントでお菓子を配る際はアレルギーの確認を行っている。	今後もお菓子などを提供する際には、原材料の確認と万が一の際の対処法を保護者に確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画に基づいた研修や訓練を定期的に行い、安全管理が十分なされた中で支援が行われるように、必要に応じ安全計画を見直ししている。	避難経路の確認、消火器や応急措置セットの備品確認、非常用の連絡手段など、安全設備が常に適切な状態かを定期的にチェックする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	保護者に対して、安全計画及び事業所内の安全に関する取り組みの内容と説明、共有を行っている。	今後もご家庭に通所時の安全対策の徹底をお願いしていくと共に、訓練などを通じて、いざという時の対応策を確認していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットを他教室と共有し、事故が起きた原因、対策を考え教室で周知し同じ案件が起きないように対策をとっている。	ヒヤリハットがあった時は速やかに検討できる様に、今後も職員間のコミュニケーションをとっていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止に関する研修を定期的に行い、虐待防止に関する知識や対策を学ぶ機会を設けている。	虐待防止法を元に、身近に虐待が起こっている可能性があるという意識で虐待について常に意識していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	現在、身体拘束を必要とする利用者はいない為、サービス計画に記載はしていないが、やむを得ず拘束する場合は、委員会での組織的な決定や子供や保護者に事前説明をし、事前説明を行い了承を得ないと行けない事を周知徹底している。	全職員に対する研修を行い、やむを得ず身体拘束を行う時の注意点、特に自己判断で行えない事を周知徹底し、必要と思われる事例があれば、必ず委員会を通して保護者に説明を行い、了承を得た上で行う体制を構築しているが、現在の所拘束が必要な利用者がいない為、研修などを通じて問題意識を持ち続けられる様にしている。